

新連載

## NIA 吉村会長の Coffee Break

国連職員として世界中を旅してきた吉村和就会長が、日本人の知らない海外事情をウィットとユーモアを交えて綴るコラムです。ぜひお楽しみください。

## 第1回 チベット・ポタラ宮殿

抜けるような青空、ポタラ宮殿の紅宮と白宮が朝日に輝いています。中国チベット自治区ラサに入ったのが2000年の8月、国連NY本部に勤務していた時の国連ミッションでした。国連がチベットへのミッション「貧困の撲滅と環境問題解決」を中国政府に申し入れてから半年以上経ちましたが、許可が下りませんでした。当時のアナン事務総長が北京政府に抗議し、やっと実現したのです。

降り立ったラサ空港にはチベット自治区のマイクロバスが横付けされ、前後は公安警察車両が取り囲み、国賓並みの扱いです。国連ミッションメンバーは欧米人を中心に8人。私は上司である台湾系中国人のボスと一緒にしました。ボスから「吉村さん、行動に気をつけなさいね」と言われましたが、その意味が最初に判ったのが、ホテルに着いてからニューヨークへ国際電話を申し込んだ時でした。

30分待たされた後、国連NY本部に繋がった瞬間、受話器の音が急に下がりました、盗聴開始です。夜は当然、尾行が付きましました。私が立ち寄った土産物屋の主人が警察に呼ばれたことを数日後に知りました。一番驚いたのは、マイクロバスの運転手のことでした。5000メートルの峠を越えて、ある少数民族の村に行った時、途中の休憩で立ち寄る村落で最も歓迎されたのが、この運転手でした。な



チベット・ポタラ宮殿（筆者撮影）

ぜか？彼は欧米で教育を受けた地元出身の共産党の超エリート幹部でした。つまり運転しながら我々の会話（英語）をすべて聞いていたのです。

世界遺産のポタラ宮殿に着きました。1642年にダライ・ラマ5世が建造、チベット仏教の聖地です。

ポタラ宮殿（海拔3800メートル）のトイレは凄かったです。ダライ・ラマが使っていた和式風トイレは、覗くと300メートル下の崖が見えます。つまり糞尿が落下していく間に空中に霧散するのです。仮に断崖絶壁にこびり付いても、すぐに乾燥して草木の栄養源となります。それが理由で300年間使用しても、詰まりも臭いもない極めて清潔なトイレなのでした。

チベットの報道に接する度に、鮮明なる記憶が呼び戻される今日この頃です。